

シルバー人材センターは、当時、東京大学の初代学長をされていた大河内一男先生が、「自主的に働くことの中に生きがいを見いだす」という理念の下に昭和50年に高齢者事業団をつくられたことに始まります。

昭和61年には高齢社会を支える重要な施策として、「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」が公布され、シルバー人材センター事業が法制化されることになりました。

センターでは、臨時的・短期的かつ軽易な仕事を紹介しています。ですから、ここで働いて生活を維持するというものではなく、「働く」ことを通じて地域社会の一員として生き生きと活動することを目的としています。

定年を迎え、老後をどのように過ごそうかというとき、気が付けば会社人間になっていて、地域社会は知らない人ばかり。何をすればよいか分からない。そういったとき、就業を通じて地域社会の役に立つきっかけを見つけることも可能です。

また、体を動かして働くことは健康増進にもつながり、持っている知識や技能を後の世代に残すこともでき、さらに仲間も増やせるといったメリットもあります。

現在822人の会員のうち男性が617人、女性が205人で、仕事は個人の希望に応じています。例えば、施設管理などで、朝の1時間だけという仕事もあります。当然配分金は少ないですが、毎朝決まった時間に起きることが生きがいにつながる場合もあります。

団塊の世代が大量に定年を迎えている現在、今まで継続してきた分野だけでなく、新たな企画・提案型の事業展開も必要となっています。センターでは、個人が持っているそれまでの経験、能力を生かす形での新しい就業分野の開拓にも力を入れています。

今まで、人生の荒波を乗り越えてこられた高齢者の方々は、豊富な知識と卓越した技能をお持ちの『地域の財産』です。そうした人材が生かされてこそ、地域は光輝いていくと信じています。



公益社団法人
廿日市市シルバー
人材センター 理事長
おかざき・みやこ
岡崎 美弥子さん

高齢者は、豊富な知識と卓越した技能をお持ちの『地域の財産』。そうした人材が生かされてこそ、地域は光輝いていくと信じています。

職群別	仕事の種類	職群別	仕事の種類
管理	施設管理(学校、市民センター、駐輪場など)	サービス	家事補助(掃除、食事づくりなど)▼育児支援▼その他(保育園清掃、介助補助など)
事務整理	一般事務▼筆耕(宛名書き、賞状書き)▼調査事務(在庫調査など)	軽作業	搬入など)▼その他(学校用務、荷物)
技能	大工、塗装、左官▼植木剪定▼縫製▼その他(刃物研ぎ・パソコン作業など)	折衝外交	配達(回覧、広報紙など)
技術	▼各種講師▼自動車運転▼経理事務		

■シルバー人材センターで扱う業務

シルバー人材センター会員の方に聞きました

植木剪定はまったくの素人だったというお二人。センターの講習のほか、自身で通信教育も受け、現在は植木剪定のスペシャリスト。班員を束ねる総括として活躍されています。



ひらばやし せいじ
平林 清二さん (73歳・佐方)
植木剪定班 班長
定年までは金庫を作る会社で働いていました。剪定作業は1班3人で組み、複数の班で作業に当たることがあります。仲良く楽しく作業を行っています。



たしろ げんいち
田代 源一さん (68歳・城内)
植木剪定班 班長
食品の営業をしていました。作業では、声掛けなどを徹底し、安全を第一に考えています。毎日が楽しく充実しています。長く続けたいと思っています。

入会説明会
申込み・問合せ
廿日市市シルバー人材センター
☎ 01468

オールド・ルーキーを募集します。おむね60歳以上で働く意欲のある方、あなたのもうひとつの物語を作ってみませんか。女性の入会も大歓迎です。説明会参加の申し込みは電話で。

■廿日市本所(廿日市市下平良一丁目1-5)
2月22日(金)、3月22日(金)、4月25日(木)

■大野支所(廿日市市大野4-1-37番地2)
2月27日(水)

※時間はいずれも13時30分〜



写真1 植木剪定(せんてい)はまったくの素人だったという平林清二さん(写真左)と田代源一さん(写真右)。センターでは平成23年度の業務受託件数9,345件のうち、植木消毒・施肥を含む植木の剪定業務は2,579件ととっても多い。



あなたのもうひとつの物語を応援します

廿日市市シルバー人材センター

今や人生80年と言われる時代。定年退職者などが高齢者にとって、もうひとつの物語を作ること、応援しているのが、廿日市市シルバー人材センターだ。おむね60歳以上の人の希望に応じ、臨時的で短期的、軽易な業務の就業機会を提供している。

同センターは、昭和59年に廿日市町高齢者事業団として会員数119人でスタートし、平成元年に社団法人として設立。現在、市町村合併に伴い、廿日市本所、佐伯・吉和支所、大野支所、宮島出張所の組織で活動し、高齢者の第二の人生を『就業』という形で支援している。

会員は自主的に組織や事業の運営に参加し、自分で働いた分の配分金を受ける。雇用ではないため、組織として得た収入を配分する。働く日数は職種や希望により異なり、週に1〜2日や、月に1〜2日からも可能だとのこと。

毎月行われる説明会に参加し、趣旨に賛同すれば入会申込書を提出し、理事会の承認を受けた後、登録される。ただし登録には年会費が必要。

海のクリーンアップ作戦や、シルバーの日に駅や公園を清掃、清鈴園への餅つきといったボランティア活動も盛んで、地域に

おけるコミュニケーションの促進にも力を入れている。また、各種まつりへの参加、各クラブ活動など、仕事以外の魅力も多いため、活動が盛ん。

「『働く』ということが大きな目的ですが、センターの活動を通じて地域社会の一員として貢献することや、会員同士のふれあいというものも大事にしています。何より、『生きがい』と、『誇り』を持って生活ができるということ、何にも増して素晴らしいことだと思っています」とセンター理事長の岡崎美弥子さん。

センターでは、積極的に新たな分野への開拓も行っている。3カ月〜4歳までの託児サービス「なかよしルーム」や、放課後や夏休みなどの小学生の学童保育「なかよしクラブ」も平成21年に開設した。ここでは、教職員の資格所有者など、豊富な知識と経験のある会員が児童を預かり、楽しい時間を過ごしている。その背景には、児童会の収容人数に余裕がなくなってきたという社会的なニーズがあった。

岡崎さんは、「年金の受給年齢も引き上げられ、継続雇用制度が導入される中、社会のニーズに合った事業の拡大を今後の大きな課題ととらえています」と話してくれた。